

# 博物学者

# みな かた くま ぐす 南方熊楠の世界



## 南方熊楠

南方熊楠は、和歌山県が生んだ博物学の巨星。東京大学予備門中退後、19歳から約14年間、米英を遊学。さまざまな言語の文献を使って、国内外で多くの論文を発表した。研究の対象は、粘菌をはじめとした生物学のほか人文科学等多方面にわたり、民俗学の分野では柳田国男と並ぶ重要な役割を果たした。生涯、在野の学者に徹し、地域の自然保護にも力を注いだエコロジストの先駆けとしても注目されている。



## ◀ 神島

神社会社反対運動で、熊楠が守った森の一つ。昭和4年、昭和天皇が南紀行幸の際、熊楠がお迎えした島。昭和10年、国の史蹟名勝天然記念物に指定される。



## ▲ 昭和天皇御製碑

「雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」



## ▲ キャラメルの標本箱

熊楠は身近にあるキャラメルの箱やタバコの箱を標本箱として利用した。昭和天皇に御進講の折も、キャラメルの大箱に入れて生物標本を披露したと伝えられている。



## ▲ 標本整理トランク

アメリカ時代に特注で作らせたもの。標本は、顕花植物やシダ植物をミシガンやフロリダで採集し、さく葉標本にしたものや、購入したものなど、あわせて約1200点が収納されていた。



## ▲ フロックコート

昭和4年6月1日、昭和天皇への御進講の際に着用した。



## ◀ 愛用の顕微鏡

アメリカで購入し、フロリダ・キューバまで携行した物。



## 展示コーナーと主な展示品

### 2 F：常設展示室

#### 幼少期～青年期

- ・青少年期抄写本類
- ・課餘隨筆
- ・成績表
- ・採集土器、石器等

#### 海外での活躍

- ・旅券（パスポート）
- ・珍事評論
- ・手提げカバン
- ・トランク
- ・顕花植物標本
- ・科学雑誌「ネイチャー」
- ・学術誌「ノーツ・アンド・クエリーズ」
- ・ロンドン抜書
- ・孫文のサイン
- ・孫文から贈られた書物
- ・土宜法龍宛て書簡
- ・ディキンズ来簡
- ・熊楠・ディキンズ共訳「方丈記」

#### 生物学者・南方熊楠

- ・米産菌類標本
- ・プレサドラ菌類図譜
- ・平沼大三郎宛て書簡
- ・ハドリアヌスタケ標本
- ・淡水藻類プレパレート標本
- ・キャラメルの大箱
- ・ウガの標本
- ・白衣
- ・フロックコート

#### 民俗学者・南方熊楠

- ・十二支考腹稿
- ・「山の神草紙」写本
- ・オコゼ標本
- ・柳田国男宛て書簡
- ・入監中の手記
- ・田辺抜書

#### 研究生活と熊楠の晩年

- ・研究・写生用具
- ・南方植物研究所設立趣意書
- ・顕微鏡・ルーベ
- ・蔵書印
- ・硯箱
- ・メガネ
- ・キセル
- ・十手
- ・孫の手
- ・紋付羽織
- ・晩年期の日記
- ・娘文枝に遺贈の「今昔物語」
- ・デスマスク（彫刻家 保田龍門 製作）

### 2 F：展示ロビー

- ・南方熊楠先生の像（保田龍門 最後の作）
- ・矢吹義夫宛て書簡（通称「履歴書」）〔複製と部分翻刻〕

### 1 F

- ・映像作品 『知の巨人・南方熊楠』

※展示品は断りなく入れ替えることがあります。

## ◀ 和漢三才図会（写真上）と熊楠の抜書（下）

和漢三才図会は江戸時代に編纂された日本の百科事典。105巻に及ぶ。熊楠は8歳の頃、初めて手にして、17歳まで「抜書」の作成を続けている。